
思い付きSS集

エミリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い付きSS集

【Nコード】

N0371Y

【作者名】

エミリア

【あらすじ】

えゝ。まあ、今まで活動報告とかに載せて来た気まぐれSSを置いてる場所です。

活動報告を見られない方や、見逃してた人に見て貰う為に作ってみました。

気まぐれで続編をアップすることもあります、余り期待しない方がいいと思います。（笑）

ま、暇潰し程度にはなると思うので、良かったら見て行って下さい。あと、これから思い付きSSはこっちでアップしていこうと思います。

す。

2人の転生者 疾風伝・サスケside - 最終話案その1（前書き）

今思えば、これが記念すべき1回目の気まぐれ（思い付き）SSでした。

2人の転生者 疾風伝・サスケside - 最終話案その1

サスケ――

私達の――

ソイルを――

使って

頭に響いてきた白らの声。それと同時に白達の体は光だし、粒子の様なものへと変わっていく。そして、その粒子は俺の手へと集まり1つの形を為した。

4

「例え…、どれ程の血が流れようと構わない。混沌^{うちはまたら}を滅ぼす為なら――」

俺はそう叫ぶと、白らの命によって形成されたソイルの弾く。

「瞳に満ちる光、ティアレインボー！」

弾かれた白らの命^{ソイル}は魔銃へと装弾される。が、たった1発だけでは魔銃は使えない。すると――

「よし、使え！オレの命を！！」^{ソイル}

イタチ兄が自らの命をソイルへと変え、俺に託した。そのイタチ兄のソイルを俺は躊躇なく掴む。

「究極の魂、ソウルガンメタル！」

白らのソイルに続き、イタチ兄のソイルも魔銃へと装弾された。そして、最後のソイルは既に決まっている。

「そして——お前に相応しいソイルは決まった！！」

俺は混沌^{混沌}を指差した後、自分の胸に手を置き高らかと宣言し、自身の体を光へと変えていく。

ミカゲ…

「……」

自分の命をソイルへと変えていく中、俺は1人残される妹に最後の言葉を告げる。

俺を……、俺らを撃て！——我が命の螺旋、エンドレスホワイト！

俺がミカゲに告げるべき言葉を終えるとその体はソイルへと変わり、魔銃へと装弾された。そして——

「撃ち抜け、召喚獣！バハムート！！」

ミカゲによって引かれた引き金によって、俺と白ら、イタチ兄の命^{ソイル}の力が解き放たれ、混ざり合い究極の召喚獣が呼び出された。

2人の転生者 疾風伝・サスケside - 最終話案その1（後書き）

なんというFF・Uエンド。どう考えても打ち切りの流れとしか思
えませんかよね。 （笑）

劇場版機動戦士ガンダム00のブルーレイを買った時に謎のテンションで書きあげた思い付きSSです。（笑）

ちなみに話の流れは既にレクイエムが破壊されて、メサイアをどうにかしようとしてる所です。

シルヴィとキラ、アスランはストフリとインジャスに太陽炉を搭載する作業で、出て来れてなかったといった感じと思って読んで下さい。

アリス「来たのか!？」

アリア「遅いよ!」

ムウ「待ちかねたぞ、坊主共」

ザフトとのMSによる乱戦の中、現れた3機のMSに喜色の籠った
声を出す3人。

アスラン「デステイニープランを止める為にはメサイヤに突入する
必要があるぞ」

キラ「そうだね」

シルヴィ「分かってる」

アリス「私に任せる!」

アリスはそう告げると、サバーニヤを00クアンタとSフリーダム、
∞ジャステイスの前に出し、全てのホルスタービットとライフフルビ
ットを展開する。そして――

アリス「行くぞ、ハロ!」

ハロ×2<リヨウカイ、リヨウカイ!>

ハ口の返答と同時に全モニターにフォロスクリーンが展開され、進行方向にいる全てのザフトMSがロックされる。そして――

アリス「乱れ撃つ!!」

アリスの言葉と同時に放たれた豪雨の様なビームの嵐に進路上にいる多数のザフトMSは四肢を破壊され、達磨となった。

そして、尚もビームを放ち続けながら進行するサバーニャを追い越し、今度はハルートの前に出た。

アリア「マリア!反射と思考の融合」

マリア「分かってる!!」

アリアの言葉にマリアが答えると同時にハルートの搭載されていたマルチシステムが起動し、ハルートの頭部は二つ目から六つ目へと変化し、マルチへと変わる。

それと同時にマルチからは多数のシザービットが射出された。そして、マルチから放たれるビームとシザービットによってザフトMSは四肢を撃ち抜き、切り裂かれ達磨となる。

アリア「これがイノベーターの力よ!!」

マリア「違う！これは未来を切り開く力！！」

サバーニヤとマルートによってメサイアへと向かう道が一気に開かれる。そして――

アリス「姉さん！！」

アリスから放たれた言葉で開かれた道を一気に駆けぬけるシルヴィとキラ、アスラン。が、あと少しで辿りつけるといふ所で横合いからザフトMSが攻撃を仕掛けてきた。

シルヴィは00クアンタのソードビットを展開し、GNフィールドでその攻撃を防ぐ。

シルヴィ「私達は戦う為に来た訳では――」

シルヴィがそう口にした瞬間、ビームの雨がザフトMSに降り注ぐ。そして――

ムウ「何を躊躇してんだ。生きる為に戦えと言ったのはお前らの筈だろ！！」

現れたのは太陽炉を搭載したアカツキとその指揮下に入っている多

数のブレイヴだ。

ムウ「例え、矛盾を孕もうと存在し続ける。それが生きることだと！トランザム！！」

アカツキがトランザムを使うと同時にブレイヴ部隊もトランザムを使い、周辺に集まりつつあったザフトMSを一掃していく。そして

ムウ「行け、坊主共！未来を斬り開け！！」

その言葉にシルヴィ達は無言で頷き、メサイアへと向かって行く。

その頃、アリス達はザフトによる四方八方からの攻撃を受けていた。

複数のホルスタービットが艦砲射撃を防ぎ切れずに破壊される。そんな状況に追い詰められ、悪態をつきながらも諦めない。

アリス「くそ！だが、まだまだ！トランザム！！」

サバーニャはトランザムを使い一気に加速し、MSがいない上方へと向かう。そして、ザフトMSをロックし、ミサイルとビームの雨を放った。その頃、アリアとマリアはと言うと――

アリア「いけない！」
マリア「姉さん！？」

ザフトMSの集中砲火を受けていたダガーLの救出へと向かっていた。GNキャノンとGNソードライフルからビームを放ち、ザフトMSの四肢を破壊し無力化する。

アリア「イザークとかだったらこの行為を偽善だっって言っただろうな」

マリア「それでも善だよ」

アリア「そうね。私達は命を見捨てたりはしない！トランザム！！」

アリアはそう告げながらマルートを飛行形態へと変化させビームを放ちながらその場から移動した。

はい！非常に中途半端な終わり方してますね。

今は2人の転生者をメインに書き進めてますが、ガンダムSEED
Zeroもいつか再開できたらと思っています。（真剣に）

もし、ISの世界がガンダム00っぽかったら（前書き）

これも前作同様、劇場版ガンダム00影響を受けてます。（笑）

配役的には以下の感じです。

刹那⇨F⇨セイエイのポジション：織斑 一夏（IS：00クアンタ）

ロックオン⇨ストラトスのポジション：セシリア⇨オルコット（IS：サバーニヤ）

アレルヤ⇨ハプティズムのポジション：シャルロット⇨デュノア（IS：ハルト）

ティエリア⇨アーデ（マイスターver）のポジション：鳳 鈴音（IS：ラファエル）

ティエリア⇨アーデ（小型ターミナルユニット）のポジション：篠ノ之 束

ソーマ⇨ピーリスのポジション：ラウラ⇨ボーデビツヒ（IS：ハルト）

スメラギ⇨李⇨ノリエガのポジション：織斑 千冬

フェルト⇨グレイス&ミレイナ⇨ヴァスティのポジション：山田 麻耶

グラハムⅡ エーカーのポジション：織斑 マドカ（IS：ブレイヴ
指揮官仕様）

カティⅡ マネキンのポジション：ナターシャⅡ ファイルス

その他特別出演（？） キャラ：篠ノ之 箒（IS：∞ ジャスティス）
& 更識 簪（IS：ストライクフリーダム） & 更識 楯無（IS：
ガッデス）

（活動報告時とは一部変更されてます）

もし、ISの世界がガンダム00つぱかったら

セシリア「これは…!？」

簪「来たの……？」

シャル「まったく！」

ラウラ「遅いぞ！」

鈴「ヒーローは遅れてくるって奴ね！」

楯無「いいところ取りを狙ってたのかしら？」

箒「待ちかねたぞ！」

マドカ「織斑一夏……！」

ELSとの乱戦の中、颯爽と現れたISとその操縦者に喜色の籠った声を出す8人。

束「いっくん。対話の為にはELSの中枢に向かう必要があるよ」
一夏「分かってる」

束の言葉に一夏は頷いて答える。すると、そこにセシリアと簪から通信が入って来た。

簪「そういうことだったら——」
セシリア「わたくし達にお任せ下さい！」

簪とセシリアはそう告げると一夏の前に出た。そして、ストライクフリーダムに搭載されている8基のドラグーンと、サバーニヤに搭載されている14基のホルスタービットとライフルビット？を展開する。そして――

セシリア「行きますわよ、ハロ！簪さん！！」

ハロ<リヨウカイ、リヨウカイ！>

簪「うん！」

セシリアの言葉に簪とサバーニヤのA・I・『ハロ』が返答すると同時にセシリアの目の前にフォロスクリーンが展開され、簪の方はマルチロックオンシステムを起動させ、一夏の進行上にいる全てのELSをロックする。そして――

簪「乱れ――」

セシリア「――撃ちますわよ！」

セシリアと簪の言葉と同時にサバーニヤから放たれる嵐の様なビームと、ストライクフリーダムのハイマツトフルバーストによる攻撃で、進路上にいる多数のELSは破壊させた。

そして、尚も攻撃を続けながら進行するセシリアと簪を追い越し、今度はシャルとラウラ、鈴が前に出る。

シャル「ラウラ！反射と思考の融合だよ」
ラウラ「了解！」

鈴「あんた達、しくじるんじゃないわよ！」

シャル＆ラウラ「当然^だ！！」

シャルの言葉にラウラが返答すると同時にハルートに搭載されていたマルートシステムが起動し、マルートへと変わる。

そして、マルートの単一機能であるコア・ネットワークによる共鳴によりシャルとラウラは精神的なリンクを果たし、シャルが思考を担当、ラウラが反射を担当することでマルートの真の能力が解放された。

マルートからは多数のシザービットが射出された。そして、マルートから放たれるビームとシザービットによってELSを撃ち抜き、切り裂かれていく。

ラウラ「これが我々の力だ！」

シャル「違う！これは未来を切り開く力だ！！」

シャルとラウラによって多数のELSが屠られている頃、鈴はラファエルのGNビッグキャノンで、ELS防衛戦に参加していた巡洋艦を取り込もうとしていた大型ELSを破壊していた。

そして、セシリアと簪、シャル、ラウラ、鈴の攻撃によって超大型ELSへと向かう道が一気に開かれる。

鈴「一夏！今よ！！」

セシリア「行って下さいまし！」

鈴とセシリアの言葉に一夏は頷き、開かれた道を一気に駆けぬける。
そして――

簪「お姉ちゃんも行つて！」

楯無「簪ちゃん！？」

シャル「箒も行きなよ！」

ラウラ「嫁のことを頼むぞ！」

箒「シャルロット！？ラウラ！！？」

シャルとラウラ、簪の言葉に箒と楯無は驚く。が、3人の意思を汲み取った2人は静かに頷くと一夏を追い掛けて行った。

そして、一夏に追いついた箒と楯無はELSへと確実に近付いて行く。が、あと少しで辿りつけるという所で横合いからELSの攻撃を受けることとなった。

一夏が咄嗟にソードビットを展開し、GNフィールドでその攻撃を防いだことで3人にダメージは無い。が、攻撃は止むことなく続く。

一夏「俺達は戦う為に来た訳では――」

一夏がそう口にした瞬間、ビームの雨がELSに降り注いだ。そして――

マドカ「何を躊躇している、織斑一夏！生きる為に戦えと言ったのはお前の筈だ！！」

現れたのはブレイヴ指揮官仕様の搭乗者である織斑マドカと、その指揮下に入っている多数のブレイヴ部隊だった。

マドカ「例え、矛盾を孕もうと存在し続ける。それが生きることだと！――トランザム！！」

ELSの攻撃を紙一重でかわしながら反撃し続けるマドカ。が、それだけの技量があっても、圧倒的な物量の前では長く持つ訳も無く、GNドライブを搭載した右スラスターを撃ち抜かれる。

例え、もう1基GNドライブを搭載していて、トランザムで出力を上昇させても、片方が破壊されては能力が格段に低下する。

開発者であるが故にそれを理解していた一夏はマドカの元に向かうとするが、それはマドカの一斉によって止められる。

「私に構うな！行け、織斑一夏！！生きて未来を斬り開け！！」

マドカの言葉に一夏達は唇を噛み締めながら頷き、マドカとブレイヴ部隊を背に超大型ELSへと向かって行った。

一夏達が超大型ELSへと先行している時、IS学園所有の母艦は織斑千冬の指揮の下、ELSへと攻撃を行っていた。

麻耶「織斑君、先行していきます」

千冬「頼むぞ、一夏。……艦の汚染状況と連合艦隊の損失はどうなっている？」

麻耶「15%を超えました！連合艦隊の損失は55%です！！」

千冬が麻耶からの報告を受けた直後、連合の防衛戦総司令官を務めるナターシャ・ファイルスから通信が入った。

ナターシャ「ブリュンヒルデ」

千冬「ナターシャ・ファイルス。もう少しだけ持ち堪えろ」

ナターシャ「な！？勝機があると言っても言うの？」

千冬「いや、無い」

ナターシャ「なっ！なんですって！！」

千冬「だが、希望はある！！」

その頃、セシリア達はELSとの乱戦で四方八方からの攻撃を受けていた。セシリアはISへと姿を変えたELSからの攻撃で左マニピュレーターを破壊された状態で奮戦していた。

その時、巡洋艦へと姿を変えた大型ELSの主砲が簪を狙っている所をセシリアは目にし、巡洋艦ELSと簪の間に10枚のホルスタービットを展開し、攻撃を防ぐ。

セシリア「簪さん!!」

が、それでも艦砲射撃を防ぎ切れず、何枚かのホルスタービットは破壊されることになった。そんな状況に追い詰められ、セシリアは悪態をつきながらも諦めようとはしない。

簪「セシリアさん。ありがとう……」

セシリア「どういたしまして。それにしても、多勢に無勢にも程がありますわね」

簪「うん。でも、まだだよ」

セシリア「そうですね。簪さん、行きますわよ!」

簪「うん!」

セシリア&簪「トランザム!!」

セシリアと簪はトランザムを使い一気に加速し、ELSがいない上方へと向かう。そして、自分達の下方にいるELSをロックし、ミサイルとビーム、レールガンの雨を放った。

その頃、シャルとラウラ、鈴はと言うと――

シャル「いけない!」

ラウラ「シャルロット!?!」

鈴「もう遅いわよ」

戦闘中にELSに取り込まれそうになっているIS操縦者を発見し、シャルは救助へと向かおうとしていた。

すでにISの4割がELSに取り込まれている為、鈴はシャルを止めようとする。しかし――

シャル「それでも行くよ!」

シャルはそう告げると、IS操縦者のシールドバリアと絶対防御を制御する部分以外の汚染されているパーツのみを破壊し、操縦者を助け出した。

が、この時にマルチの右ブースターがELSに掴まれ、汚染されることになる。シャルは即座にブースターを切り離し、破壊してから再びELSへの攻撃に復帰する。

鈴「全く。人助けもいいけど、それで自分が危険にさらされたら意味無いでしょ。そんなの偽善みたいなものよ!」

シャル「それでも善だ!僕は命を見捨てたりしたくない!――
――トランザム!」

鈴の言葉にシャルはそう返答するとビームを放ちながらその場から移動した。

もし、ISの世界がガンダム00っぽかったら（後書き）

これまた中途半端な終わり方！（笑）

ま、気まぐれSSだから仕方ないか……。

ちなみに作者は未だに劇場版ガンダム00ネタを引き摺ってます。
（笑）

なんちゃって2人の転生者 疾風伝 その1（前書き）

これまたネタまみれの気まぐれSSです。（笑）

話の流れは第五次忍界大戦で、うちはマダラにサスケとナルトが捕まって、外道魔像に尾獣を抜かれようとしてる所と思って下さい。

なんちゃって2人の転生者 疾風伝 その1

マダラ「争い無き新世界の為に貴様らの命、貰い受ける」

うちはマダラがそう告げると、幻術によって体の自由を奪われたサスケとナルトから九尾と三尾の？チャクラ？が『外道魔像』に吸収され始めた。

ナルト「ぐああああああ」
サスケ「がああああああ」

尾獣の？チャクラ？を引き抜かれる苦痛により断末魔の叫び声を上げるサスケとナルト。

そして、その姿に笑みを浮かべるマダラ。しかし、その笑みを浮かべていられるのは僅かな時間だった。

ナルト&サスケ「なんつつてな！」
マダラ「なっ！！？」

ナルト「6体の尾獣を封印してる外道魔像。そいつが無けりゃ、人柱力から尾獣を引き抜くことはできねえよな」

サスケ「だが、逆にお前が外道魔像から尾獣を奪われるとは思わなかったのか!!」

ナルトとサスケがそう告げると同時に外道魔像へと吸収されていた尾獣の力が、逆にナルトとサスケに吸収され始めた。

サスケ「俺らが全て貰い受ける」
ナルト「俺達が全て貰い受ける」

なんちゃって2人の転生者 疾風伝 その1（後書き）

元ネタは鋼の錬金術師のお父様とグリードの遣り取りですね。
ホームクルス

ちなみにこの場合、サスケとナルトは外道魔像に封印されてる尾獣を取り込み、2人共が最強の人柱力となります。（笑）

2人の転生者inネギま 麻帆良祭案（前書き）

時間軸的には麻帆良祭の少し前。3-Aの出し物を決めようとする所です。

原作ではネギが出し物の案をまとめる進行係をしてましたが、本ネタでは教育の一環として進行役も生徒に任せていると思って下さい。

尚、進行役はパルと朝倉です。という訳で本文に移行します。

2人の転生者inネギま 麻帆良祭案

朝倉「それじゃあ、麻帆良祭でウチのクラスがやる出し物を決めたいと思います。やりたいものがある人は挙手してね」

朝倉がそう告げるが、Aクラスで挙手する者は誰もいなかった。その状況に朝倉は溜息を一度吐いてから口を開く。

朝倉「ちよつとちよつと。こんなんじゃ何時まで経っても出し物なんて決まらないわよ」

釘宮「だったら、朝倉がまず案を出してよ」

朝倉「…え？私？」

柿崎「そうそう。第一、こういうのってまずは進行役が1つ目の案を出すのがセオリーよね」

朝倉「……………それじゃあ、写真館とか」

まさか、自分が最初に案を出す羽目になるとは思ってもいなかった朝倉は咄嗟にそう口にした。

そして、案を黒板に板書する役目であるハルナは1つ目の案として写真館・秘密の覗き部屋と黒板に書いた。

何とも微妙なハルナのネーミングセンスにクラス全員は少し引く。
そして、このままではAクラスの出し物がヤバくなると感じたのか、
何人かが拳手をした。

朝倉「んじゃ、ゆえっち」

夕映「メイド喫茶はどうでしょう？目新しくもないですが、それなりにお客を確保できる筈です」

メイド喫茶を提案する夕映。そして、ハルナは黒板にメイド喫茶・
これが私のご主人様と書く。これまた何とも微妙なタイトルだ。

朝倉「う、うん……。じゃあ、次ね。次、まき絵」

まき絵「ウエディング喫茶とかどうかな？ウエイトレスが全員ウエ
ディング姿なの。で、お客さんにもウエディングドレスの貸し出し
をしたりするの。」

女の子なら誰も一度はあこがれると思うから人気が出ると思うん
だ」

ウエディング喫茶を提案するまき絵。そして、黒板にはウエディン
グ喫茶・人生の墓場と記される。ハルナの店名センスは微妙過ぎだ。

朝倉「んじゃ、次ね。次、超」

超「中華喫茶はどうネ？他のクラスではまずやらないだろうし、何
よりこのクラスには中華料理の達人がいるネ。そもそも食の起源と
は——」

何やら食に関する高説を語り始めた超。ハルナはそんな話を完全に無視し、黒板に中華喫茶・ヨーロピアンと書く。

そして、ハルナが丁度書き終えた直後。教室の扉が開かれた。現れたのはうちはサスケだ。

サスケ「お前ら、麻帆良祭の出し物は決まった——どうやら、補習の時間を増やした方がいいみたいだな」

黒板に書かれている文字を見て、サスケは溜息を吐いた後にそう告げた。それに対するクラスの反応は——

クラス「せ、先生！それは違うんです！！それはパルが勝手に書いたんです！私達が馬鹿な訳じゃありません」
ハルナ「なっ！わ、私一人のせいじゃないですよ！大体——」
サスケ「馬鹿者！みつともない言い訳すんな！！」

全てハルナが悪い様に言うクラス全員にサスケは一喝した。そして

サスケ「先生は、こんな馬鹿なことを書く早乙女を選んだこと自体が頭の悪い行動だと言ってるんや！！」

ハルナにとって何とも辛辣な一言が放たれたのだ。

2人の転生者inネギま 麻帆良祭案（後書き）

元ネタはバカテス2巻です。

割とマッチングする様な気がしてるので、少し編集して本編に使用するつもりです。

主な変更は進行役がハルナ1人ということや、出店案を増やすことですね。

麻帆良祭編が始まる前にアンケートを取る可能性が高そうです。
（笑）

2人に転生者　うちは一家innぬらりひょんの孫　その1? (前書き)

これは最近、活動報告に上げた新しい思い付きSSです。

時間軸は鵜(安倍晴明)再誕直後。ネギま世界での出来事終了直後のうちは一家が介入したと思って下さい。(ネギまの世界でも奴良組が存在していたことを前提に読んで下さい)

2人に転生者　うちは一家innぬらりひよんの孫　その1？

リクオ「母に手をかけ…、妖怪達^{オレ}までひつかきまわして……」
つらら「リ…、リクオ様！！」

リクオ「千年前に死んだ奴が、この世で好き勝手やってんじゃねえ」
晴明「…なんだ、お前は…？」

羽衣狐の寄り代となっていた山吹乙女の体を抱き寄せながら『祢々切丸』の切先を向けるリクオと、それを一瞥する晴明。リクオは山吹乙女の体をその場に横たえ、『祢々切丸』を構える。

リクオ「たたつ斬る！」

首無し「！？リ…、リクオ様！！一人じゃダメだ！！」

淡島「リクオ、何やってんの。見てなかったのか、今のお！？」

イタク「…援護するぞ、リクオを」

ゆら「奴良くん…（め…）」

つらら「（滅せられる！！）リクオ様アア」

晴明に突っ込んで行くリクオと、リクオの行動の各々口を開くゆら、奴良組妖怪、遠野妖怪一同。

そして、晴明はそんなリクオの攻撃を人差し指1つだけで止めて見

せる。

リクオ「（何！？）」

清明「なる程…、『祢々切丸』か。たしかにいい刀だ。だが、私を倒す程の力ではない」

清明がそう告げると同時に、その指先には五行思想の五芒星が現れ、『祢々切丸』には罅が入り、その刀身は砕け散った。

リクオ「ね…、『祢々切丸』が…」

清明「お前が鯉半の真の息子か」

リクオ「！！」

清明「力が足りんな……」

イタク「リクオオオオオ（まに…、あわねえ！！）」

『祢々切丸』が砕けたことで呆然とするリクオと、そのリクオに刀を振り下ろそうとする清明。そして、リクオの援護をしようとしていたイタクの叫びがその場に響いた。

が、清明の凶刃がリクオを斬り裂こうとする刹那。一条の光が二人の僅かな隙間を通過した。

その衝撃によりリクオは吹き飛ばされ、清明は少しだけ引いた。吹き飛ばされたリクオはイタクや淡島にキャッチされていた。

リクオと清明を襲った光の着弾点には畳の埃が舞い上がってる。そして、数十人の咳き込む声が聞こえてきた。

サスケ「ゲホ！ゲホ！！こ、ここはどこや？」

舞い上がる埃が晴れ、姿を現したのは南国果実を彷彿とさせる髪型の男と数十人の女性の集団だった。

いや、正確には男2人に対して女が数十人の集団。和装姿もいれば、洋装姿もいる。なんとも協調性が皆無な集団だった。

サスケ「ん？あそこに居んのはリクオやん。何で、別の世界に居るんや？……ま、ええか。おゝい、リクオゝ！」

リクオ「（……一体誰だ？）」

サスケにとっては面識のあっても、この世界のリクオにとっては全くの面識がないので、返答しようがない。

というか、シリアスなシーンを空気を読まず破壊するとは流石チート野郎だと言えるだろう。

それはさて置き、サスケはレンとシア、ノーマを抱き寄せると、『万華鏡写輪眼』を発動させ、『羅刹』を使って傷だらけのリクオの傍に一瞬の内に移動した。

奴良組＆遠野組＆花開院組「（！！？）」

サスケ「おいおい。何でそんな傷だらけやねん。俺に言ってみ？親

戚（？）のよしみでお前をそんなにした奴をボコつたるから」
奴良組「はあ！！？」

いきなり現れたサスケ達からリクオを守る様に構えていた奴良組と遠野組。その中で奴良組だけが驚きの声を上げた。

サスケはそんなことを気にすることなくリクオを見た後、空中にいる晴明に視線を向けた。

サスケ「成程、あいつがお前をそんなボロボロにした主犯か。……俺の親族に手を出したんや。ちよいと灸をすえますか」

サスケはそう告げると、背中に担いでいた出刃包丁の様な大刀に手を添え、構える。そして――

サスケ「卍――解！」

サスケの言葉と共に信じられない程の膨大な力の奔流が発生した。その余りの力に、その場にいた妖怪組と陰陽師組は吹き飛ばされる、もしくは押しつぶされそうになる。

力の奔流が収まると、その中心には先程とは異なるロングコートっぽい着物で漆黒の長刀を持ったサスケがいた。

サスケ「『天鎖斬月』。……そして――」

サスケがそう口にすると、レンとシア、ノーマがサスケの両腕と背中に抱き付いた。まるでサスケが口にせずとも何を望んでいるか分かっているかのようだ。

レン達がサスケに抱き付くと、再びサスケ達を中心に竜巻の様な突風が起こった。が、それも一瞬の出来事で、竜巻が収まるとサスケの持つてゐる刀は更に形状が変化し、更にサスケの背中からは光の翼の様なものが生えていた。

サスケ「煌解『翠命斬月』。……さて、こっちの準備も整ったことやし、そろそろ俺の身内に手を上げた落とし前つてのを付けて貰おうか」

今ここに日本最強の陰陽師と次元世界最強のチート野郎の戦いが始まるうとしている。

2人に転生者　うちは一家innぬらりひよんの孫　その1?（後書き）

これは割と好評だったので、ネタが思いついたら続編を上げる可能性が高いです。（ま、ネタが思いつかなかったら上げられないんですが……（苦笑））

なんちゃって2人の転生者 疾風伝 その2（前書き）

これは2011年46号のジャンプに掲載されていたNo.560のNARUTOが元ネタです。

ジャンプ派ではなく、単行本派の方はUターンして下さい。単行本派でもネタバレ？バッチ来いや！って方はそのままお進み下さい。

本当にいいですか？後悔はしませんか？

……分かりました。ここまで来て引き返さない猛者な貴方に敬意を表します。

どうぞ、私の駄文を楽しんで行って下さい。

尚、原作とは異なり我愛羅の部隊に増援に行ってるのはサスケだと思っ
て下さい。

なんちゃって2人の転生者 疾風伝 その2

二代目土影・無（カブト憑依）「やはり、憶測通り…。『写輪眼』の行き着く先は…、輪廻眼でしたか」

マダラ（穢土転生）「オレがこの目を開眼したのは死ぬ少し前だ。カブトとか言ったな…。この身体に何をした？」

無「だから言ったでしょう？……全盛期以上に仕上げておいたと」
マダラ（穢土）「貴様…、オレの体の秘密を…、…あのうちのは石碑を読めもしないお前ごと気が解読したというのか？」

無「大蛇丸様とボクの長年の実験データを元に仮説を立ててみました。そして今は…、アナタがその仮説を証明してくれる…。六道仙人…、あの神の力の一端に触れることができる。ボクの造ったアナタの力で…」

マダラ（穢土）「勘違いするな。お前の造った力ではない……」

マダラ（穢土）は両の手を合わせると、印を組む『須佐能乎』を形成し、アクシズかよ！？という突っ込みを入れたくなる様な巨大な球状の岩の塊を空中に出現させた。

忍1「な…、なんだよ。コレは！？」

忍2「う…、うそだろ…」

サスケ「！？」

テマリ「じ…、次元が違う…」

我愛羅「……神の……力か」
オオノキ「……」

落下してくる巨大な岩の塊。どう考えても逃げるのは不可能。防ぐことなど尚不可能。誰もが絶望する中、希望を手放さないものが居た。

サスケ「うおおおおおおお！」

希望を手放さなかった者。それはサスケだった。サスケはマダラの様に両の手を合わせ、『須佐能乎』を形成していたのだ。

いや、正式には『須佐能乎』では無い。『百式・須佐能乎』。それがサスケの『須佐能乎』の名称だ。

一般的な『須佐能乎』とはサイズが異なる。それ以上に特徴的なのは腕の数だ。腕の数が100本もあるのだ。

流石のマダラ（穢土）もこれには想定外だったのか、驚いた顔をしている。が、サスケはそんなことを気にもせず、『百式・須佐能乎』に命令していた。

サスケ「この程度の石ころ、俺の『百式・須佐能乎』で破壊したる
！やれ、『百式・須佐能乎』！！」

百式・須佐能乎「オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラ
オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラア！！」

『百式・須佐能乎』から繰り出されるオラオララッシュ。それにより、マダラ（穢土）が作り出したアクシズ（笑）はいとも簡単に粉砕された。

マダラ（穢土）「ば、バカな……！」

サスケ「驚くんはまだや！これが『須佐能乎』の究極系…、第二形態！『須佐能乎・世界』や！！」

アクシズ（笑）が粉碎されたことで驚きを露わにするマダラ（穢土）に追い打ちをかけるサスケ。その背後には『スタープラチナ・ザ・ワールド』の姿に変貌した『百式・須佐能乎』がいた。

サスケ「時よ、止まれ」

サスケがそう告げると同時に世界の時が止まる。そして、サスケはマダラ（穢土）の近くに一瞬で移動し、攻撃を仕掛ける。

サスケ「無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄ア！！」

須佐能乎・世界「オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラアッ！」

サスケと『須佐能乎・世界』^{ザ・ワールド}から繰り出されるオラ無駄ラッシュに目まぐるしく顔や体の形状を変化させていくマダラ（穢土）。

最後にはマダラの周辺に起爆札付きの苦無を大量に投擲し、サスケは我愛羅達のいる地点に戻った。そして――

サスケ「そして、時は動き出す」

空条承太郎の様なスタイリッシュなポーズを取り、サスケがそう告げると同時に時は動き出し、マダラ（穢土）は爆発しながら吹っ飛んだ。

サスケ「フッ…、やれやれだぜ」

忍連合「（……こ、こいつの方が神だった！？）」^{サスケ}

気が付いたらマダラ（穢土）が吹っ飛んでいたという、なんとも意味不明な状況であるにも拘らず、忍連合・我愛羅分隊の面々は本能でサスケがやったことを感じ取り、そう思った。

ちなみに無を乗っ取っていたカブトは現実逃避の為か、マダラ（穢土）がやられたのを見た瞬間に無の乗っ取り解除していた様だ。

なんちゃって2人の転生者 疾風伝 その2（後書き）

まさかのH×H&ジョジョネタ。正直、マダラがサンドバックでしか無い件に関しては、誰もマダラに同情はしないでしょう。（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0371y/>

思い付きSS集

2011年11月13日21時33分発行